

グラスミックス施工要領書

1. 搬入

グラスミックスは4 t車または10 t増トシ車（積載15トシ）に1 m³フレコンバック入りで現場に搬入されます。

- ・4トシ車（全長8.5 m・全幅2.2 m） 4袋（4 m³）
- ・10トシ増トシ車（全長12 m・全幅2.5 m） 15袋（15 m³）

※荷下ろし設備は現場にてご用意ください。

※グラスミックスのふけ率：**1.25～1.2倍**（150 mm厚の場合188～180 mm分納入）

路床が土の場合はふけ率1.25倍、コンクリート又はアスファルト、屋上の場合は1.2倍です。



トラック積載時の荷姿



0.25m³以上のバックホーを使って荷下ろし、掃き出しをおこなってください。

2. 施工

①掘削基盤土壌（既存土壌）の転圧

- ・排水勾配を取った後2.5 tまたは4 tのローラーを使用して転圧する。1往復程度（写真1）

②暗渠施設の敷設

- ・耐圧ドレイン板200 w×30 tを敷き込む。（写真2）

③碎石（根茎誘導耐圧基盤又は単粒碎石＋フィルター）

- ・碎石層を敷き均します。0.25m³以上のバックホーを使用。
- ・2.5 tまたは4 tのローラーを使用して転圧する。1往復程度

⑤グラスミックスの敷き込み・転圧

設計している厚みになるよう均一に敷き均します。フケ率は1.25～1.2倍です。

- ・0.25～0.3m³バックホーのバケット、排土板またはストレートドーザを使用して敷き込みをおこなう。（写真4・5）
- ・不陸調整は金杵、木杵、テラー、トンボ等を使用しておこなう。（写真6）
- ・2.5 tまたは4 tのロードローラーを使用して転圧する。1往復程度（写真7）

- ・仕上げにグラウンドマット、トンボ等で表面を目荒らし芝生の根付きを良くします。

※ポイント・・・バックホーの走行はできるだけグラスミックスの上でおこないます。
グラスミックスで走行路を造ると効率よく敷き込めます。（写真8）



写真 1 : 既存土壌転圧



写真 2 : 暗渠施設



写真 3 ; 碎石層転圧



写真 4 : バックホウによる敷込み



写真 5 : 大型現場ではストレートドーザ使用



写真 6 テーラーや木枠を使用して不陸調整する



写真 7：転圧にはロードローラ使用
小型現場ではサイドローラや
振動コンパクトも使用します



写真 8：グラスミックスの走行路は大型車も乗り入れ可能に

3. 仕上げ・養生

不陸調整、転圧が完了した後は、グラスミックス表面をグラウンドマット、コートブラシ、トンボなどにより表面の目荒らしをおこなって下さい。

芝生の活着を促進します。

暫く芝生を張らない場合は、ブルーシート、コンパネ等で雨が直接当たらないように養生をして下さい。

芝生と外周部の見切り部の高さは芝生を張ったときに凸凹にならないように均一に調整してください。

※芝張り時に再度不陸調整をおこなうと芝生が綺麗に張れます。



グラウンドマット等を使って目荒らし

2015.9.9



しあわせ環境クリエイター
東邦レオ株式会社

TOHO LEO

緑化関連事業部 東京事務所
〒170-0004 東京都豊島区北大塚 1-15-5
TEL 03-5907-5500 (代表) FAX 03-5907-5510